

「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 豊後大野 開催概要

〔開催日：平成30年11月22日（木）〕

〔訪問 ①〕 社会福祉法人 萌葱の郷 障害者支援施設 めぶき園
〔訪問 者〕 大分県教育委員会（工藤教育長、教育委員、理事、教育次長 他）

めぶき園では、利用者の生きがいと豊かな生活を保障し、自立と社会参加を実現することを目的として、生活・労働・余暇等に関する専門的な支援を提供し、利用者の福祉の向上を図っています。

当日は、活動棟や生産活動棟をはじめとする施設を見学するとともに、五十嵐理事長から、法人や施設を立ち上げるに至るまでの経緯や、幼児期から成年までの利用者のライフステージに寄り添った支援の様子について紹介をいただきました。



施設外観

〔訪問 ②〕 豊後大野市立犬飼小学校
〔訪問 者〕 大分県教育委員会（工藤教育長、教育委員、理事、教育次長 他）
豊後大野市教育委員会（教育次長 他）

豊後大野市立犬飼小学校では、「『学力・生徒指導・体力』の三つのプロジェクトを中核にした『芯の通った学校組織』の取組深化と『チーム学校』の実現」及び、「縦（連携型小・中一貫教育）と横（犬飼町学校運営協議会）の連携・協働」による重点目標の達成を学校経営の重点に掲げて取組を進めています。

当日は、嘉藤教頭から学校評価の4点セット、連携型小・中一貫教育目標管理シート、三つのプロジェクトの具体的な内容等について紹介がありました。

また、授業参観では子どもたちの考える力、伝える力を育てるための「考える場」「考えを交流する場」が授業に位置付けられており、子どもたちが意欲的に学習に臨む姿が見られるとともに、特色ある学校づくりに向けて、グローバル人材の育成を目指す「外国語（英語）」の授業も行われていました。



「外国語」の授業風景

〔訪問 ③〕 豊後大野市立犬飼中学校
〔訪問 者〕 訪問先②に同じ

豊後大野市立犬飼中学校では、「ふるさと『おおの』を愛し、たくましい体や豊かな心、確かな学力を身につけた生徒の育成」を学校の教育目標に掲げ、平成30年度の重点目標を「基礎基本の定着 低学力層の生徒の個別指導・支援！」の1点突破で学校組織マネジメントに取り組んでいます。

当日は、廣末校長、阿部教頭から、取組を進める中での3つの戦略「1点突破、全面展開」「経営の見える化」「短期マネジメント」等の説明がありました。

また、授業参観では、3年生の「友～旅立ちの時～」の素晴らしい合唱や落ち着いたある雰囲気の中で学びに向かう1年生の数学、2年生の英語での生徒の姿が見られ、教職員の組織的な取組が、生徒の学びに向かう姿勢に現れていることが感じられました。



廣末校長による学校マネジメント説明

【訪 問 ④】 大分県立三重総合高等学校

【訪 問 者】 訪問先①に同じ

県立三重総合高等学校では、「生徒一人一人が自分の将来への確かな希望を抱き、高い誇りと困難に打ち克つ強い心を育み、地域の文化・経済の担い手として、たくましく生きる若者を育成」を学校の教育目標に掲げ、普通科、生物環境科(農業科)、メディア科学科(商業科)それぞれの特色を生かした教育活動を推進しています。

当日は、「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善の取組や、「学び直し+人権教育」を通じた学力向上の取組、更には地域と連携した教育活動の推進に向けた「文化とスポーツの感動創造発信」「学科の特色を生かした地域貢献」による地域を支える人材育成の取組について紹介がありました。



農業科が開発した商品(ジャム)

【意見交換会テーマ】 「芯の通った学校組織」を基盤とした大分県版「チーム学校」の実現

(1) 地域を基盤とした小中高 12 年間を通したキャリア教育の推進について

(2) 中・低位層の底上げを中心とする学力向上対策について

【出席者】

大分県教育委員会(工藤教育長、教育委員、理事、教育次長 他)

豊後大野市教育委員会(下田教育長、教育委員、教育次長 他)

豊後大野市立小・中学校長(各4校)、小学校学校支援センター所長

意見交換会では、市全体の取組状況の説明の後、各学校長から自校の現状・課題についての説明も交えながら2つのテーマについて意見交換を行い、多数の取組を紹介いただきました。

(1) 地域を基盤とした小中高 12 年間を通したキャリア教育の推進について

- ▶「3Dヘプタゴン」を育てるためのキャリア教育の推進とは、「15歳で自分の進路を主体的に選択できる力を育む」「活動を通して学ぶ意欲を高める」ために、キャリア教育をすべての教育活動の根幹に据えること。子ども同士で学び合う場がある教育活動、すべての子どもが達成感を得る場がある教育活動を仕組むことによって、小中9年⇒幼小中10年⇒幼小中高13年と連続性を確立。
- ▶キャリア教育を支えるための「連携型小・中一貫教育」と「コミュニティ・スクール」の推進。
- ▶県立三重総合高等学校では、「MIESOGO(三重総GO)プロジェクト地域の感動創造・発信拠点へ」における「地域と連携した教育活動」「三科連携した教育活動」の取組を実施。



市教育委員会山田課長による説明

【主な意見等】

- ▶豊後大野市あげて幼小中高の連携に取り組んでいることがわかった。子ども園・保育園との連携も非常に素晴らしい。
- ▶ふるさとを愛する気持ちや今学んでいることが将来につながる実感できるよう、小学校の社会見学や中学校の職場体験を行っている。

(2) 中・低位層の底上げを中心とする学力向上対策について

- ▶市教委の取組として、「連携型小・中一貫教育の充実」「コミュニティ・スクールの充実」「小学校放課後補充学習の実施」を核に進めていく。
- ▶中・低位層を意識した学力向上の取組として、「放課後学習・補充学習による基礎基本の定着」「スキルタイム、朝自習の実施」「小学校の一部教科担任制による指導」「宿題指導の時間確保」「読書活動の推進」等、各校の現状にあった様々な取組を実施。



学校での取組を説明する各学校長

【主な意見等】

- ▶新大分スタンダードの徹底とユニバーサルデザインの取組が大切。市の取組は素晴らしく今後も継続してもらいたい。
- ▶小学校教科担任制(7教科)は低学力層の底上げにも有効な手立てであり、市教育委員会と相談し来年度の実施に向けて検討を進めている。(小学校長)

【意見交換会を終えて】

(下田市教育長)

- 幼保小の連携が重要であるとの認識から、今年度、市の幼児教育方針を策定し保育園・子ども園とも連携し取組を進めていきたい。
- 中学校の学力向上が課題となっており小学校と連携しながら対策を進めていきたい。
- 小学校の教科担任制は学力向上に非常に有効であり来年度は是非とも実施したい。

(工藤県教育長)

- 市の教育委員から「キャリア教育はリアルな体験をしてふるさとを位置づけること」という素晴らしい意見をいただきキャリア教育の原点を認識させられた。
- 中・低位層の学力向上は全県的な課題。UD化の視点は非常に大事だが色覚特性というところにも配慮をお願いしたい。
- 小学校の教科担任制の導入を進めていくことと併せて、人員不足という面も解決していかなければならない。